

附 表



柏 消 防 の あ ゆ み

西 暦	年 月	組 織 ・ 消 防 庁 舎 ・ 車 両 配 置 等	定 員
1954	昭和29年 9月	《東葛市が誕生》	
	11月	《柏市に名称変更》	
	12月	《柏市消防団結成》 4支団, 30ヶ分団	(柏団)1,122名
1955	昭和30年 3月	《沼南村が誕生》	
	12月	《沼南村消防団結成》 17分団 ■ 柏大火(25日)商店街46棟, 33世帯焼失	(沼団)400名
1956	昭和31年10月	◆ 少数精鋭主義を打ち出し, 柏市消防団縮小 13分団	(柏団)767名
1957	昭和32年 9月	◇ 野田市と消防相互応援協定を締結	
1958	昭和33年 2月	《柏市消防本部開設(市役所内)》 ◎ 日立製作所亀有工場から消防ポンプ自動車1台を受贈(柏) 消防ポンプ自動車を導入	(柏職)18名
	5月	◇ 松戸市と消防相互応援協定を締結	
	7月	◇ 柏市消防本部, 消防署(中央2丁目)を移転新設	
	昭和34年 4月	◆ 専任消防長を配置, 消防職員12名増員	(柏職)30名
	8月	◇ 救急自動車1台購入し, 救急業務を開始	
1960	昭和35年 4月	◆ 柏市消防職員1名増員	(柏職)31名
	昭和36年 4月	◆ 柏市消防職員10名増員	(柏職)41名
1962	昭和37年 1月	◇ 第1出張所(旭町)を新設	
	2月	◇ 流山市と消防相互応援協定を締結	
	3月	◇ 柏市消防本部庁舎を新築	
	4月	◆ 柏市消防職員6名増員	(柏職)47名
	9月	◆ 柏市消防団縮小	(柏団)485名
1963	昭和38年 4月	◇ 指揮車を導入	
1964	昭和39年 2月	《沼南町制施行》	
	4月	◆ 柏市消防職員4名増員 ● 沼南町消防団縮小	(柏職)51名 (沼団)315名
	7月	◇ 我孫子市と消防相互応援協定を締結	
1965	昭和40年 4月	◆ 柏市消防職員9名増員	(柏職)60名
	7月	○ 沼南町婦人火災予防組合連合会設置	
	11月	◇ 屈折はしご付消防ポンプ自動車を導入 ◎ (社)日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台を受贈(柏)	
1966	昭和41年 4月	◆ 柏市消防職員18名増員	(柏職)78名
	12月	◇ 第2出張所(増尾)を新設	
1967	昭和42年 4月	◆ 柏市消防職員10名増員 ◆ 柏市消防団縮小	(柏職)88名 (柏団)455名
	12月	◇ 第3出張所(根戸)を新設	
1968	昭和43年 4月	◆ 柏市消防職員10名増員	(柏職)98名
	12月	◇ 化学消防車を導入	

◆・・・柏市職員関係 ◇・・・柏市組織機構関係ほか ●・・・沼南町職員関係 ○・・・沼南町組織機構関係ほか ◎・・・受贈関係

1969	昭和44年 7月	◇柏市消防本部機構を総務課, 予防課, 警防課の3課制に改革	
1971	昭和46年 3月	◇第4出張所(大室)を新設	
	4月	◆柏市消防職員20名増員	(柏職)118名
	11月	◎柏青年会議所から救急自動車1台を受贈(柏)	
1972	昭和47年 4月	◆柏市消防職員20名増員	(柏職)138名
	10月	◇特別救助隊編成	
1973	昭和48年 3月	◇救助工作車を導入	
	4月	◆柏市消防職員22名増員	(柏職)160名
	5月	◇出張所名称変更 第1出張所→旭町分署, 第2出張所→増尾分署 第3出張所→根戸分署, 第4出張所→大室分署	
	6月	◇旭町出張所移転建設	
	11月	◇40m級はしご付消防ポンプ自動車を導入	
1974	昭和49年 4月	◆柏市消防職員18名増員	(柏職)178名
	8月	◎(財)日本船舶振興会から救急自動車を受贈(沼南)	
	10月	○沼南町役場救急隊発足(12名)	(沼職)12名
	11月	◎遼東化学工業(株)から広報車1台を受贈(柏)	
1975	昭和50年 2月	◎(社)千葉県消防設備保守協会から広報車1台を受贈(柏)	
	3月	○水槽付消防ポンプ自動車を導入(沼南町役場隊)	
	5月	○沼南町, 消防業務を開始 ●沼南町消防職員2名増員	(沼職)14名
	10月	◎(有)鮪芳から救急自動車1台を受贈(柏)	
	12月	◇増尾出張所を改築	
1976	昭和51年 4月	◎(社)日本損害保険協会から救急自動車1台を受贈(柏)	
	9月	◇消防艇を導入	
	10月	◎(社)日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台を受贈(柏)	
1977	昭和52年 4月	◆柏市消防職員7名増員	(柏職)185名
1978	昭和53年 3月	◇起震車を導入	
	4月	◆柏市消防職員15名増員 ◇柏市消防音楽隊発足	(柏職)200名
1979	昭和54年 1月	◎千葉県共済農業協同組合から救急自動車1台を受贈	
	4月	◆柏市消防職員50名増員 ●沼南町消防職員12名増員	(柏職)250名 (沼職)26名
	8月	◎柏市自動車協同組合から広報車1台を受贈	
	9月	◇柏市消防本部・消防署庁舎を移転建設 ◇柏市消防本部機構を1本部2署(西部消防署・東部消防署)4分署体制 に改革, 消防本部に指令室を設置	
	10月	◎(株)岩立産業から広報車2台を受贈(柏)	
	12月	◇水槽車(10,000ℓ)を導入	
1980	昭和55年 2月	◇高発泡車を導入	
	4月	◇柏市消防職員20名増員	(柏職)270名

1980	昭和55年4月	≪沼南町消防本部開設≫ ○沼南町消防本部, 消防署を移転建設 24m級はしご付き消防ポンプ自動車を導入	(沼職)43名
	7月	●沼南町消防職員9名増員	(沼職)52名
		○鎌ヶ谷市と消防相互応援協定を締結	
	12月	◇大室分署を改築 ●沼南町消防職員13名増員	(沼職)65名
1981	昭和56年 2月	◎(社)日本損害保険協会から救急自動車1台を受贈(柏) ◆柏市消防職員6名増員	(柏職)276名
	4月	◇茨城県高速道路等における消防相互応援協定を締結	
	9月	○特別救助隊を編成 ◎(財)日本消防協会から軽可般ポンプを受贈(沼南)	
	11月	○化学消防車及び指揮車の導入	
1982	昭和57年 3月	○鎌ヶ谷市と消防相互応援協定を締結	
	昭和57年 4月	◆柏市消防職員2名増員	(柏職)278名
	8月	◇火災原因調査車, 資材運搬車を導入 ◎(財)日本消防協会から軽可般ポンプを受贈(沼南)	
	10月	◇水槽車(5,000ℓ)を導入	
	12月	◎杉浦クニエ氏から防火指導車1台を受贈(柏)	
1984	昭和59年 4月	◆柏市消防職員11名増員 ◆柏市消防団縮小	(柏職)289名 (柏団)436名
	9月	◇光ヶ丘分署を新設	
	11月	◇救援車を導入	
1986	昭和61年 1月	◇東部消防署を改築	
	4月	○高柳分署(消防救助技術訓練塔併設)を新設	
	6月	◎沼南ライオンズクラブから査察車1台を受贈(沼南)	
	9月	◎柏稔商事(株)から救急自動車1台を受贈(柏)	
1987	昭和62年 4月	◆柏市消防職員6名増員	(柏職)295名
1989	平成元年 2月	◇旭町分署移転建設	
	4月	◆柏市消防職員8名増員	(柏職)303名
	6月	●沼南町消防職員3名増員	(沼職)68名
	9月	◎柏稔商事(株)から大型救急自動車1台を受贈(柏)	
	10月	◇根戸分署を改築	
1990	平成2年 3月	◎杉浦クニエ氏から司令車1台を受贈(柏)	
	4月	◆柏市消防職員21名増員	(柏職)324名
	9月	◎柏稔商事(株)から救急自動車1台を受贈(柏)	
	12月	◇西原分署を新設	
1991	平成3年 4月	◆柏市消防職員2名増員 ◇旭町分署を旭町消防署に改め, 西原分署を管轄下に帰属	(柏職)326名
	8月	◎遼東化学工業(株)から事務連絡車1台を受贈(柏)	
	12月	○救助器具積載型ポンプ車を導入	

◆・・・柏市職員関係 ◇・・・柏市組織機構関係ほか ●・・・沼南町職員関係 ○・・・沼南町組織機構関係ほか ◎・・・受贈関係

1992	平成4年 4月	◆柏市消防職員2名増員 ◎(財)千葉県消防設備協会より連絡車を受贈(沼南) ◇千葉県消防広域相互応援協定を締結	(柏職)328名
	10月	●沼南町消防職員10名増員	(沼職)78名
1993	平成5年 3月	◇空気充填車を導入	
	4月	◆柏市消防職員18名増員 ◇柏市消防本部に救急救助課を設置	(柏職)346名
	6月	◎遼東化学工業(株)から事務連絡車1台を受贈(柏)	
	11月	◇救急救命士による救急活動を開始	
1994	平成6年 2月	◇高規格救急車を導入	
	3月	◇消防訓練場整備	
	4月	◆柏市消防職員11名増員	(柏職)357名
1995	平成7年 1月	■阪神・淡路大震災の発生に際し、救助工作車、指揮車、救助隊員 11名を人命救助のため神戸市東灘区へ派遣(柏)	
	2月	◇取手市と消防相互応援協定を締結	
	3月	◇震災対策資機材(ファイバースコープ)を導入	
	4月	◇増尾分署を移転建設し、逆井分署に名称変更	
	7月	●沼南町消防団縮小	(沼団)313名
	8月	◇緊急消防援助隊に消火部隊1隊、救助部隊1隊、救急部隊1隊を登録	
	9月	◇人員輸送車を導入	
	10月	◇特殊災害対策資機材(緊急除染シャワー)、エアテントを導入	
1996	平成8年 8月	◇柏市消防団拠点施設27箇所に救助用資機材(油圧ジャッキ、エンジン カッター、チェーンソー)を配置	
	12月	◇支援車を導入	
1997	平成9年 1月	◇緊急消防援助隊用資機材(エアテント、ベッド、寝袋等)を配置	
	4月	◆柏市消防職員4名増員 ◇柏市消防指令センターを新設し、消防緊急通信指令システムを更新 消防本部に指令課を設置	(柏職)361名
	9月	◇ふれあいワーカー制度を導入(災害時要援護者に対する女性職員の 個別訪問)	
1998	平成10年 9月	◎(財)日本消防協会から軽可般ポンプ積載車1台を受贈(柏)	
	10月	◇空気呼吸器用面体を個人貸与 ◎(社)日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台を受贈(沼南)	
1999	平成11年 4月	◇女性職員を当直勤務者として、指令課へ配置	
	8月	◎遼東化学工業(株)から広報車1台を受贈(柏)	
	9月	◇ペア出場制度を導入(救急活動時における救急・消防隊の連携活動)	
	12月	◇葦群生地等における火災対策機器「あしがるくん」を開発	
2000	平成12年 3月	◎(財)日本消防協会から消防団用司令車1台を受贈(柏)	
	8月	○沼南消防署の耐震補強工事实施	
	10月	◇国際消防救助隊に8名登録	
2001	平成13年 6月	◇大堀川防災レクリエーション公園に照明設備(照明5基20灯)を設置	

2002	平成14年 3月	◇大堀川防災レクリエーション公園にダスト舗装を整備	
2002	平成14年 5月	◎(株)タケトシから救助艇牽引車1台を受贈(柏)	
2004	平成16年 3月	◇消防緊急通信指令システムの主要機器を一部更新	
	4月	◇勤務体制を2部制から3部制へ移行	
		◇緊急消防援助隊にはしご隊を登録	
	10月	■新潟県中越地震の発生に際し、救助工作車1台、救急自動車1台、消防ポンプ自動車1台、支援車1台、資材運搬車1台を派遣(柏)	
	12月	◇気管挿管認定救命士による救急活動を開始	
2005	平成17年 3月	《柏市・沼南町が合併》	
		◇消防本部、消防署機構を1本部4署6分署に、消防団機構を1本部5方面42分団の体制に改革	(職)433名 (団)617名
	11月	◇救急救命ネットワーク事業を開始(市内公共施設等のAEDを設置) ◎医療法人社団蛍水会名戸ヶ谷病院から自動体外式除細動器(AED)12台を受贈	
	12月	◇赤救隊制度を導入(消火隊による救急活動補完・支援活動)	
2006	平成18年 1月	◎医療法人社団オーケーエム会オーククリニックフォーミズから自動体外式除細動器(AED)9台を受贈	
	6月	◇薬剤投与認定救命士による救急活動を開始	
	8月	◇女性救急救命士が誕生	
		◎遼東化学工業(株)から自衛消防隊訓練資機材一式を受贈	
	12月	◇消防本部庁舎の耐震補強工事実施	
2007	平成19年 4月	◇消防本部に企画組織整備室を設置	
2008	平成20年 4月	《中核市に移行》	
		《柏市消防局に名称変更》	
		◇消防局機構を総務課、企画統制課、予防課、査察調査室、警防課、安全管理室、指令センター、救急課の5課2室1センター制に改革	
		◇消防特殊機動部隊の発足	
	10月	◇柏市・我孫子市消防通信指令事務協議会を設立	
	12月	◇消防局ホームページを開設	
		◎東京純薬工業(株)から火災原因調査資器材一式他を受贈	
2009	平成21年 2月	◎遼東化学工業(株)から音響装置一式を受贈	
	5月	◎柏なの花ライオンズクラブからAEDトレーナー2セットを受贈	
	7月	◇柏市消防訓練センターを開設	
		◇根戸分署を移転建設し、富勢分署に名称変更	
	12月	◇柏市消防訓練センター内に、がれき訓練施設を整備	
		◇救助工作車Ⅲ型、高度救命用資機材を導入	
2010	平成22年2月	◇高度救助隊の発足	
	3月	◇高機能消防指令情報システムを導入	
		◇柏市・我孫子市消防通信指令事務共同運用を開始	

◆・・・柏市職員関係 ◇・・・柏市組織機構関係ほか ●・・・沼南町職員関係 ○・・・沼南町組織機構関係ほか ◎・・・受贈関係

歴代消防長

	氏 名	就任年月日	退任年月日
初 代	鈴 木 眞	昭和34年 4 月 1 日	昭和37年 5 月 5 日
2 代	斎 藤 吉 永	昭和37年 5 月 6 日	昭和40年 3 月31日
3 代	加 藤 純 一	昭和40年 4 月 1 日	昭和46年 3 月31日
4 代	鈴 木 眞	昭和46年 4 月 1 日	昭和47年 3 月31日
5 代	宮 本 富之助	昭和47年 4 月 1 日	昭和51年 3 月31日
6 代	中 村 良 夫	昭和51年 4 月 1 日	昭和52年 3 月31日
7 代	鈴 木 眞	昭和52年 4 月 1 日	昭和53年 7 月10日
8 代	市 村 友 衛	昭和53年 7 月11日	昭和55年 4 月30日
9 代	長 山 巍	昭和55年 5 月 1 日	昭和56年 3 月31日
10 代	松 本 太 郎	昭和56年 4 月 1 日	昭和58年 5 月31日
11 代	藍 原 住 光	昭和58年 6 月 1 日	昭和62年 3 月31日
12 代	大 越 忠 郎	昭和62年 4 月 1 日	平成 3 年 3 月31日
13 代	星 野 栄	平成 3 年 4 月 1 日	平成 6 年 3 月31日
14 代	遠 藤 英 男	平成 6 年 4 月 1 日	平成 9 年 3 月31日
15 代	宇佐見 武	平成 9 年 4 月 1 日	平成11年 3 月31日
16 代	石 塚 茂 一	平成11年 4 月 1 日	平成14年 3 月31日
17 代	宇佐見 義 雄	平成14年 4 月 1 日	平成15年 3 月31日
18 代	小 林 進	平成15年 4 月 1 日	平成17年 3 月31日
19 代	鈴 木 豊	平成17年 4 月 1 日	平成19年 3 月31日
20 代	長 妻 力	平成19年 4 月 1 日	平成22年 3 月31日
21 代	長谷川 芳 夫	平成22年 4 月 1 日	

歴代消防団長

	氏 名	就任年月日	退任年月日
初 代	山 田 正左衛門	昭和29年12月22日	昭和30年 6 月27日
2 代	田 中 朝 吉	昭和30年 6 月28日	昭和30年12月31日
3 代	小 川 喜 助	昭和31年 1 月23日	昭和31年12月31日
4 代	日 暮 正 平	昭和32年 2 月22日	昭和34年 1 月25日
5 代	山 澤 諒太郎	昭和34年 1 月29日	昭和35年 4 月14日
6 代	鈴 木 眞	昭和35年 4 月15日	昭和36年 4 月14日
7 代	野 口 巳一郎	昭和36年 4 月15日	昭和38年 4 月14日
8 代	鈴 木 保 一	昭和38年 4 月15日	昭和40年11月 2 日
9 代	原 秀 夫	昭和40年12月 1 日	昭和52年 7 月30日
10 代	鈴 木 徳 司	昭和52年 9 月 1 日	昭和55年 3 月31日
11 代	八 木 重 男	昭和55年 4 月 1 日	昭和61年 3 月31日
12 代	張ヶ谷 稔	昭和61年 4 月 1 日	平成 4 年 3 月31日
13 代	中 嶋 晃	平成 4 年 4 月 1 日	平成12年 3 月31日
14 代	鈴 木 良 紀	平成12年 4 月 1 日	平成16年 3 月31日
15 代	染 谷 茂	平成16年 4 月 1 日	平成18年 3 月31日
16 代	廣 瀬 繁	平成18年 4 月 1 日	平成20年 3 月31日
17 代	早 川 一 成	平成20年 4 月 1 日	平成22年 3 月31日
18 代	小田山 博 史	平成22年 4 月 1 日	

過去10年間の火災予防運動全国統一防火標語

平成 13 年度 たしかめて 火を消してから 次のこと

平成 14 年度 消す心 置いてください 火のそばに

平成 15 年度 その油断 火から炎へ 災いへ

平成 16 年度 火は消した？ いつも心に きいてみて

平成 17 年度 あなたです 火のあるくらしの 見はり役

平成 18 年度 消さないで あなたの心の 注意の火

平成 19 年度 火は見てる あなたが離れる その時を

平成 20 年度 火のしまつ 君がしなくて 誰がする

平成 21 年度 消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子

平成 22 年度 「消したかな」 あなたを守る 合言葉